

天然資源の開発に関する日米会議、水産増養殖部会、第3回合同会議

共 同 声 明

第3回合同会議並びに魚病に関するシンポジウムを、昭和49年10月15日、16日の両日、東京霞ヶ関ビルディング33階、東海大学会議室において開催した。魚病に関するシンポジウムは、日米両国部会員と招へいた専門家の研究を中心に熱心な討議が行なわれ、日米両国の増養殖における魚病問題の重要性をあらためて認識した。

合同会議において、研究者の交流、研究情報の交換、協同研究課題、本会議の議事録印刷、次期合同部会の議題が討議された。研究者の交流は米国側部会として、デラウェア大学のDr. ケント・ブライスを1975年に日本の海区水産研究所に送ることを計画し、また、日本側部会としても、同年に日本海区水産研究所の小金沢照光室長をアメリカの研究機関に送ることを企画することにした。

情報交換は、これまで十分な配慮がなされていなかったが、部会としては今後、重要な分野について文献交換を活発にすることにした。この部会で交換された各種の文献、情報の交換は、極めて高く評価できる。なお、米国側部会では、定期的に選別した日本の文献を米国語に翻訳するシステムを作ることを試みており、またアメリカ政府は増養殖関係の情報をコンピューター化する計画を進めているが、これはUJNR Program にとっても、有益なものとなる。

共同研究課題として、貝類の病気がとりあげられたが、詳細については共同研究が発足する前に最終的なつめを行ないたい。当面の問題については、米国側部会はシンダーマン委員、日本側部会は小金沢委員が共同して作業を進めることにした。議事録の印刷については、すでに第1回の合同会議議事録が印刷され、日米両国に配布されているが、本会議の議事録を、魚病のシンポジウムに提出された報告も含めて印刷することが打ち合わされた。

第4回の合同会議について、日米両部会は1975年10月に米国において開催することにした。このとり扱いは最終的には日米両国の部会長によって行なうことになる。なお、第4回会議では栄養と餌料についてのシンポジウムを併催することにした。

最後に第3回の合同会議の議事録を確認し、本会議を終了した。

1974年10月16日

於 東京

*William N. Shaw*

米国側部会長

William N. Shaw

日本側部会長

石川 厚